

そのほかの金融商品など

商品ファンド

●**特徴** 商品ファンドは、投資家から集めた資金を1つにまとめ、その資金を、主として貴金属、農産物、エネルギーなどの商品先物市場と、通貨、金利、債券、株価指数などの金融先物市場、現物市場など幅広い金融資本市場で分散運用し、その収益を投資家へ分配する実績配当型の金融商品です。いわば“商品版の投資信託”といえるでしょう。どのような商品に、どのような運用方法で投資するかについては、「契約締結前交付書面」をよく読んで確認しましょう。

従来はほとんどが元本確保型でしたが、昨今の超低金利の金融情勢を反映し、こうした設定が難しくなっていることにより、ほとんど全てが積極運用型となっています。なお、商品ファンドは、預金保険制度の対象ではありません。

●**利回り** 基本は実績配当です。商品ファンドには、元本確保型という満期償還時に元本が確保されるように工夫されたものや、元本の一部を確保する一部元本確保型や、元本確保に必要な制約・費用をなくし、積極的に収益を狙う積極運用型があります。最近多い積極運用型では、特に運用成果により元本が毀損することもあります。

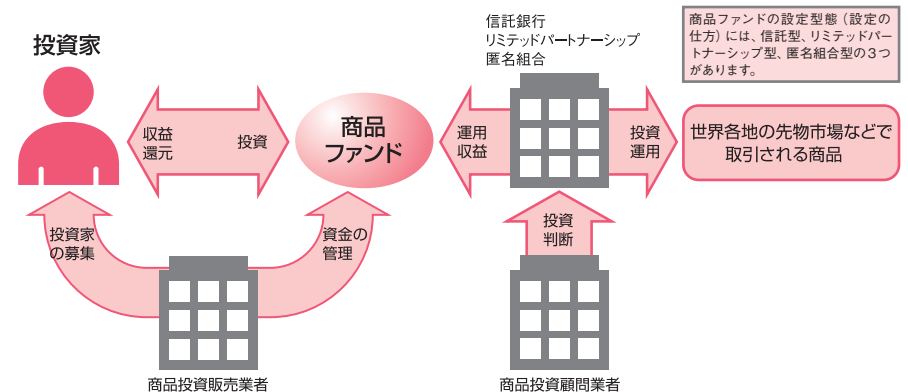
●**償還期間** ファンドによって異なりますが、償還期間が、3年～7年程度が多くなっています。また、最近追加型のファンドで特に運用期間を定めず、毎月追加、中途解約が可能なものも出てきています。

●**税金** 信託型は個人の場合20%源泉分離課税、匿名組合理型は総合課

税となっていますが、源泉徴収を行うものもあります。

●**申込み** そのときどきで募集されるスポット型と、常時申込みを受け付けている追加型があります。

商品ファンドの仕組み



金融商品購入の窓口…商品ファンドの販売業者

商品ファンドの販売業者は、金融商品取引法の第2種金融商品取引業の登録が必要です。また、商品先物等の運用については、いわゆる「商品ファンド法」による許可業者であり商品投資運用のプロでもある商品投資顧問会社に一任する必要があります。

商品先物取引

●**特徴** 商品先物取引とは「将来の一定の時期に商品とその対価の授受を約する売買取引で、その目的物の商品を転売または買戻ししたときは差金(当初の買値又は売値と、転売または買戻ししたときの売値または買値の、差額)の授受によって決済することができる取引」です。つまり手元に商品がなくても売る契約ができるし、買う契約をした場合でも差金決済をすれば商品を受取らなくてもよいということになります。

<留意事項>

●**取引** 商品先物取引は商品取引所で行われます。一般の投資家は商品取引会社(商品取引所法に基づく許可を受けた会社。当該法の名称は平成23年1月に「商品先物取引法」に変更される)に取引を委託して行います。その際、最低の投資資金として必要になるのは、取引総額の5%から10%程度の**取引本証拠金**です。投資家が商品取引会社に預けた投資資金(取引本証拠金を含む)は、商品取引会社を通じて**(株)日本商品清算機構**に預託され、商品取引会社の財産とは別けて保管されます。

たとえば現在の取引総額が100万円、取引本証拠金が10万円の商品について値上がりを予想して買い付けた場合、130万円に値上がりして転売すれば30万円の利益となるので、10万円で3倍の利益が出たということになります。逆に70万円に値下がりしてしまい転売すると30万円の損失となるので取引本証拠金の3倍の損となります(ほかに取引を委託する手数料と手数料に係る消費税などがかかります)。

このように商品先物取引は基本的にハイリスク・ハイリターン取引です。

●**注意** 取引本証拠金の50%を上回る計算上の損が出たときに、取引を決済せずに継続するためには追加の証拠金、つまり「**取引追証拠金(追証)**」が必要となりますので、取引する場合は余裕資金で行うことが大切です。なお、日本商品清算機構は、平成23年1月をめぐりに取引に必要な証拠金の算出方式を変更する予定です。これに伴い追証などの証拠金システムにも変更が予定されています。

金

●**特徴** 金は国際的に取引されている投資商品の代表格で、戦争や国際的金融不安、インフレなど、政治情勢や経済情勢が混乱しているときに値上がりしてきました。そうした意味で資産保全のために保有することがしばしばあります。

●**種類** 金投資では、金地金と金貨がよく知られていますが、純金積立などの金融商品もあります。金地金は地金商、商品取引会社、銀行、貴金属店などで取扱っています。金貨は各国政府が発行している法定

通貨です。地金型の金貨の価格は金相場に連動しますが、製造費などがかかるので、同量の金地金より割高です。24K(カラット)、22Kの違いがありますが、同じ重量の金を比較した場合、24Kは22Kよりも金の含有量は多くなります。

ちなみに24Kとは製品全体が金つまり純金のことで、22Kには一部銀や銅が含まれています。純金積立は、「ドル・コスト平均法」によって、銀行口座を通して毎月一定額の金の買付けを行って積立していくもので、月々3千円以上千円単位が主流です。いつでも時価で現金化が可能で、金地金やジュエリーとの交換もできます。

●**価格表示** 価格の表示方法には、「トロイオンス」(TOZ:31.1035g)あたりのドル建ての国際価格と、グラムあたりの円建て価格があります。

<留意事項>

●**リスク** 金は通常、利息がつかず値上がり益を求めることになりますが、価格変動リスクがあり、市場の取引状況によって価格が上下します。また、金は国際的にはドル建てで、国内では円建てで取引されているので、国内の金価格は円ドル為替相場の変動リスクがあります。

●**税金** 地金や金貨の売却益は譲渡所得として扱われ、総合課税で確定申告が必要です。純金積立の場合、値上がりに伴う売却益は雑所得になります。

知るほると ひとくちメモ⑥

知るほるとでは、みなさんの企画した講演会、講習会、勉強会に出向き講師を勤める「金融広報アドバイザー」を各地委員会から派遣しています。金融広報アドバイザーは、金融についての基礎的な情報や知識を広めることを目的としてボランティアで活動しています。「家計簿のつけ方を勉強したい!」「最近の金融トラブルについて詳しく話を聞きたい!」などなど、くらしの金融情報を勉強したいと思ったら、各都道府県にあるお近くの金融広報委員会にご相談ください(各地委員会の連絡先は306ページをご覧ください)。

